

1. 仏教僧侶たち、「中国に抗議のハンガー・ストライキ」予定

Independent Monk Network for Social Justice (IMNSJ)に所属する約100人の僧侶が、9/13、プノンペンにある中国大使館の前で”Hunger Strike(ハンガー・ストライキ)”を8時間に渡って決行する計画を立てているようだ。目的は、Koh Kong 州の Areng Valley のダム計画を中止すること、そして、中国が行っている少数民族への抑圧をやめることである。IMNSJ 代表の Ly Channen さんは、「僧侶達は、中国の下水工事会社が建設している Stung Cheay Areng ダムに反発しているだけではなく、チベット民族に対する中国政府の差別や、イスラム少数派ウイグル族の排除などに対しても、やめるように訴えているのです」と話した。「私達は、みな同じ人類です。カンボジア人やウイグル族、他の民族に対して中国が民族浄化を起こすのを、黙って見ているわけにはいきません」と Channen さん。このハンガー・ストライキは9/13の朝9時から夕方5時まで行われる予定だ。

2. 元最高幹部2 被告が控訴、ポト派法廷さらに長期化

9/30、カンボジアの旧ポル・ポト政権による大虐殺を裁く特別法廷の当局者は、8月にともに最高刑である終身刑の一審判決を受けたヌオン・チア元人民代表議会議長(88)とキュー・サムファン元国家幹部会議長(83)の元最高幹部2被告が29日に正式に控訴したことを明らかにした。元最高幹部への判決は初めてだったが、両被告の弁護団は「判決には誤りがある」と不服を表明。公正な裁判を受ける権利が侵害されたなどと主張している。特別法廷は二審制。二審(上級審)での公判開始の時期は未定だが、裁判はさらに長期化が必至となった。両被告の裁判は罪状に沿って分割審理されている。最初の裁判では1975~77年の住民強制移住や、西部ポーサット州での旧ロン・ノル政権兵士の処刑に関する「人道に対する罪」が裁かれ、8月7日に判決が言い渡された。法廷では7月末から、少数民族チャムやベトナム人の「大量虐殺罪」などを裁く2番目の裁判も始まっている。

3. 日本支援で南部経済回廊の拡幅・高速道整備

タイ国境からカンボジアの首都プノンペン、ベトナム南部ホーチミンまでを結ぶ「南部経済回廊」のカンボジア区間の活性化を、日本が支援する。2015年3月にネアックルン橋が開通すると陸路で全線開通するが、これに続いてタイ国境—プノンペン間の国道5号線の拡幅に円借款を供与。プノンペン—ホーチミン間を国道1号線に平行して走る高速道路「E1」計画のカンボジア区間も、支援に向けて調査を進める。

4. 台湾の鉦斉、カンボジア工場を増強

台湾の製靴受託大手、鉦斉国際は来年前半、カンボジア工場の生産能力を現在の2倍に拡大する。機能性素材「ゴアテックス」の製造認証取得に伴う関連製品の受注増に対応するため、従業員も増やす。鉦斉のカンボジア工場は約半年前に稼働し、今月には生産ライン3本体制となる予定。工場は既にゴアテックスの製造認証を取得済みで、米アウトドア用品ブランド「ザ・ノース・フェイス」から同素材を採用した運動靴を受注。来年1~3月期の生産開始を予定する。従業員は現在の1,600人から来年に4,000人まで拡充する予定。第2、3期でもそれぞれラインを6本設け、第3期は2016~17年に稼働する見通し。

5. 通勤トラックの衝突、労働者が負傷

9/01、カンダル州で、労働者を載せたトラックが向かいから走ってきていたバイクと正面衝突を起こして、約40人が負傷する事故があった。警察はバイクのドライバーがスピードを出しすぎているとして逮捕した。また、家畜搭載用のトラックを運転していたドライバーは負傷しており、保障金を支払うように訴えている。事故が起きた Kandal Stung 地区の警察所長 Men Chanrith 氏は、「昨日38人を載せたトラックは、Takeo 州から Kampong Speu 州に向かって走行していました。縫製業の労働者を運ぶトラックは、ほぼ毎年事故を起こしています。乗客が仕事の開始時間に間に合うように、しばしばスピードを出しすぎていることが原因です」と話した。National Social Security Fund が集めたデータによると、2013年、地方から工場へ働きに出る途中で事故で死んだ縫製・靴産業の労働者の数は67人に上るといふ。2012年の49人よりも増加した数値だ。

6. 通勤トラック横転、労働者が負傷

9/08、プノンペン Meanchey 地区、Chung Fai Knitwear で働く60人以上の縫製業労働者が、帰宅途中、乗車していたトラックが横転し、負傷した。トラックは Kandal 州 Kandal Stung 地区を走行中、道路のくぼみをよけようとして横転し

たようだ。Free Trade Union (FTU)代表 Tith Phat 氏は、「病院の労働者たちを見舞いにいきました。怪我の状態がひどいのは、5人ほどです。この5人はもちろん怪我の回復を待ちますが、残りは明日から仕事に戻る予定です」と話す。

7. Xin Fang 縫製工場の労働者、ストライキ継続

400人近い労働者達が、Por Sen Chey 地区にある Xin Fang 縫製工場からプノンペンの労務省まで、争議の仲裁を政府に求めるための行進を行った。Coalition of Cambodian Apparel Workers' Democratic Union (C.CAWDU)代表の Chhun Rind 氏は、「Xin Fang 縫製工場の労働者達が仕事をストライキを始めたのは8月18日でした。労働者達が主張した20箇条の要求のなかには、『解雇された3人の労働者を復職させること』、という項目もあります。労務省までの行進を行ったのち、組合員と労働者の代表は政府と話し合いを行うことができました。しかし会社の代表者は来なかったので、実りある交渉ともいきませんでした。問題が解決するまでストライキは止めません」と話す。Xin Fang 社からはまだコメントは届いていない。Xin Fang 工場の労働者達は先週、工場の前でタイヤを燃やすなどの活動を行ったが、次の日も同じ行為をしようとしたところを警察官によって制止された。

9/08、プノンペンの Xin Fang 縫製工場では、工場周辺でストライキ活動を行ったとして、106人の労働者の解雇が発表された。マネージャーの話によると、Por Sen Chey 地区にあるこの工場ではすでに、30人の労働者を解雇していた。この30人に関しては、仕事に戻るようにとの命令が裁判所から下っていたにも関わらず、無視したことが理由とされる。話をしたのは工場の統括マネージャーを勤める Vong Thavin さんで、「私たちとしても、解雇などしたくはありませんでした。しかし彼らは強情な態度を崩さなかったのです、どうしても会社として手段を取らなくてはいけなかったのです」、と述べる。Xin Fang 工場の労働者約400人は、工場から労務省までデモ行進を行って、工場側との話し合いを仲介してくれるよう政府に求める活動を行っていた。ストライキの参加者を代表するのは Coalition of Cambodian Apparel Workers' Democratic Union (C.CAWDU)だ。彼らは8月18日から仕事を放棄し、以前解雇された3人の復職と、他にも19項目の要求内容を主張した。C.CAWDU で法専門のスタッフ Seang Yuth 氏は昨日、「Xin Fang 工場が行ったことは、カンボジアの法務に反しています」、と話をした。

8. 労働組合幹部、1/03のストライキで告発される

1/03に発生した縫製業労働者によるストライキは、労働者が警官隊に撃たれて死亡するという悲惨な結末を迎えていたが、これに関して暴動の起因となったとして訴えられていた労働組合のリーダーが告発されていることがわかった。Collective Union of Movement of Workers (CUMW)代表の Pav Sina 氏は、9月12日、プノンペン裁判所に出廷し、プノンペンの Veng Sreng Boulevard で起こったストライキに関する尋問を受けなければならない。Pav Sina 氏に、調査官である Chea Sokheang 氏から、「故意にストライキを過激化してものを破壊し、カナディア産業地域周辺の交通を阻害すると脅した罪を問わなくてはなりません。2013年12月25日から、2014年1月3日にかけて起こった出来事です」といった内容の出廷命令が届いたようだ。尋問に出廷しない場合は逮捕されることとなるが、Sina さんは問われている罪に関して否定しており、「自分以外にも5人の組合リーダーが同じく出廷命令を受けている」、と明らかにした。

5人のうちのひとり Ath Thorn さんは、Coalition of Cambodian Apparel Workers Democratic Union (C.CAWDU)の代表で、「私はまだ命令を受けていませんが、そのうちに来るでしょう。先週裁判所を訪れましたが、そこで私たちへの訴えがあることに気づきました。また、裁判官のひとりには私に召喚状も見せてくれました。この訴えの裏には Garment Manufacturers' Association in Cambodia の存在があります。GMAC は、170以上の工場を代表する組織です」、と話している。「いくつかのメジャーな労働組合に対して裁判を起こすため、170箇所の工場が GMAC の協力を得ようとしている」と、2月にポスト紙が報じた。そして GMAC の事務局長の Ken Loo 氏は、「GMAC の活動が今回の出廷命令と直接の関係があるかどうかはわかりませんが、私たちが何らかの結果を望んでいるのは確かです。私も調査の為、先週、裁判所に呼び出されました。私は裁判所に対して、ストライキによる損失や人々の負傷の責任はどこにあるのか、はっきりと判決を出すように、と言いました」と話す。

一方、内務省のスポークスマン Khieu Sopheak 氏は、「ストライキで人が死亡した件について、政府からはいまのところなんの発表もできない」、と述べた。労働人権団体は Sina さんが告発されたことには驚き、「まさか、という気持ちです。裁判に至る過程のどこかに、何らかの誤解があったのではないのでしょうか。もしこれが政府のとるべき手段だ、と思っっているのなら、ありえないことです。過去に戻ってしまったようにも感じます」と Solidarity Center の Dave Welsh 氏は話す。

Community Legal Education Center の労働プログラム代表 Moeun Tola 氏は、「今回の尋問のタイミングは、意図して狙われたものです。最低賃金決定の期日が迫ってきたから、裁判所への出廷を利用したのです」と話す。去年のストライキでは最低賃金 160ドルが主張されていたが、今年は労働組合の要求が 177ドルとなっている。政府の Labour Advisory Council が、10月に行われる最終的な話し合いをする予定で、実際の賃上げは1月を予定していると言われている。

9. 労働組合幹部、裁判に大規模デモで対抗

労働組合幹部は、「尋問のため裁判所に出廷させられた6人の組合代表者のうちひとりでも拘留しようとするのであれば、ストライキなどの手段をとる」といった主張を明らかにした。プノンペン裁判所に出廷した6人は、1月上旬に発生した暴動ストライキと関わりがあるとされている。Cambodian Alliance Trade Union 代表の Yang Sophorn 氏は、「もしストライキ活動をしたからといって私達を逮捕すれば、もっと大々的な活動をします」と話している。また、プノンペン調査員の Chea Sokheang 氏は先週ポスト紙に対して、「以前、労務省が縫製業の最低賃金を、労働者側がずっと要求していた160ドルではなく、100ドルまでしか賃上げしない、と発表し、その後10日間に渡って全国的にストライキが発生しました。このときストライキを誘発し盛り上げたのが、この6人の組合員だとされています。わたしも裁判所での尋問を傍聴しています」と話した。

ストライキを暴徒化させた罪に問われているのは Sophorn さん、Chea Mony さん、Ath Thorn さん、Rong Chhun さん、Pav Sina さん、Morm Nhim さん。もし判決で有罪がくだされたら、最大で5年の懲役が課せられる。Collective Union of Movement of Workers 代表の Pav Sina さんは出廷予定だが、「私に罪を着せれば、工場40箇所以上で、多くの労働者達がわたしの解放を求めて仕事をしなくなるでしょう」と話す。また人権団体 Solidarity Center のカンントリーディレクター Dave Welsh 氏は、「組合員の逮捕によって、カンボジアで衣料品を製造している海外メーカーは、次のストライキを恐れることでしょう。完全に逆効果です。予定されている尋問日が最低賃金を話し合う会議日とかぶっています。明らかに政治的意図が感じられます。これはカンボジアの縫製産業に注目している投資家達に、マイナスの印象を与えてしまうでしょう」とも述べる。Garment Manufacturers Association in Cambodia の事務局長 Ken Loo 氏は、「逮捕だと思い込むにはまだ時期尚早ですが、もしそのようになれば、労働者達には立ち上がる権利はあるでしょう」と話した。

10. 盗まれたジーンズの損害1億円

プノンペンの Russey Keo 地区にある Roo Hsing 工場の警備員が、最高仕様のジーンズおよそ2万着を盗んで逃げたとされている。リーバイスや H&M などのジーンズも製造している Roo Hsing 工場の統括マネージャー Lak Daramony さんは、「盗まれたジーンズはすでに輸出用に出来上がったもので、被害額は100万ドル近くに上ります。工場がこの警備員たちに対し訴訟を起こすかどうかは、まだわかりません。工場の弁護士からは、まだコメントはありません」と話す。

工場ではいつも、ESP 警備会社から派遣される12人の警備員達が警備についていた。夜中12時、容疑者達は他の同僚警備員6人にコーヒーを買ってきたが、これに睡眠薬が入れられていた可能性がある。その後6人は気を失い、残り2人はいつもどおりの仮眠をしたとされている。Daramony さんは、「土曜日の午前2時、トラックに載せてジーンズを盗み出しているところが、監視カメラに映っていました。犯人は4人のようでした」と話す。工場がある Tuol Sangke コミュニの警察所長 Hun Hean 氏は、「私達は犯人がどこへ逃げたのかを捜査しています。しかし警備員を派遣している会社自体には、いまのところ何らかの法的手段を取ろうとは考えていません。この民間警備会社の代表が、事件後すでに一度工場を訪れたようですが、わたしはその時忙しく何を話したのかは把握していません」と話す。

11. バスの2路線目が誕生

9/08、プノンペン市議会は、首都の2線目となるバスをの運営を始めると発表した。ナイトマーケットから Kandal 州の Takhmao town まで、途中68個所のバス停に停車する。今回の運行のために韓国から購入した18台の中古バスを走らせる予定だが、市議会のスポークスマン Long Dimanche 氏の話では、「週末に走るのは9台だけ」ということだ。また、市内の交通渋滞や交通事故を減らすため、できる限り公共交通機関を利用するようにと、Long Dimanche 氏はプノンペン市民に呼びかけた。プノンペン市議会在が初めてバスの運行を思い立ったのは2001年であったが、市民の協賛を十分に得ることができず失敗に終わっている。2月から試行されているバスは、先週に運行機関の延長が決定された。同時に、ナイトマーケットから Choam Chao コミュニまでが走る第3の路線も、9月15日から開始予定だ。フン・セン首相は今年8月に、2020年までに合計で18路線を運行させる計画を発表している。

12. 落雷により男性二人が死亡

9/11、落雷の直撃によって、Pursat 州で1名、Kandal 州で1名の計2名が死亡した。1月以降、落雷によって70人が死亡し50人が負傷している。今回、死亡したのは少年と農夫で、2人とも田んぼの近くを走行中に落雷にあつたとされる。National Disaster Management Committee のキャビネットディレクター Keo Vy 氏は、「死亡した14歳の少年は、Kandal 州の Chhaving コミュニに家族が所有している田んぼから、バイクで帰っているときに落雷に合ったようです。また、24歳の農夫 Thorn Tak さんは、Kravainh 地区の Tra Ngel コミュニにある田んぼのなかをトラクターで移動している最中でした」と話す。

以上